

# ニッキン

## 積立投資で活かす時間分散の効果

三菱アセット・ブレインズ ファンドアナリスト 山田 晃子

投資の時間軸を長期、短期に分けて考えたとき、一般投資家にとって取り組みやすいのは長期投資であろう。短期運用（投機）では、要人発言や市場の需給、コーポレートアクション、経済指標の発表等の情報を入手してから取引を実行するまでのスピードが収益の源泉になる。短期間で大きな収益を上げる魅力はあるものの、たとえプロであっても想定とは異なる市場の反応等により、確実に利益を上げ続けるのは容易ではない。長期投資はすぐに結果が分かるものではない

が、投資対象の資産価値の上昇や利子等を楽しみながら、複利効果や価格変動幅の抑制により安定したリターンが期待できる投資手法である。

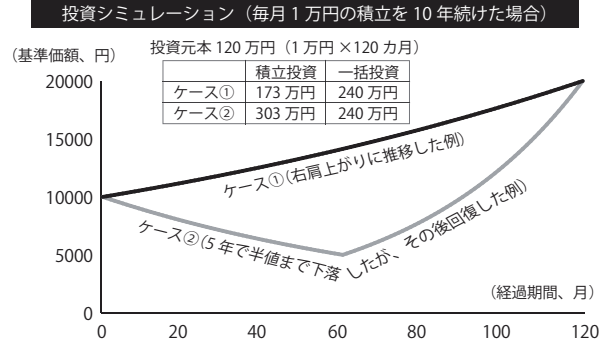
### 投信 ビジネス の 動所

一括投資で資産を長く保有することも長期投資であるが、強みをさらに生かせるのは投資タイミングを分散する積立投資である。一般投資家には資産が分散された投資信託の定額積立が最も手軽に積立投資をする方法だろう。資産

価格が常に上昇を続けるならば一括投資が有効だが、実際の相場には様々な局面がある。下落局面においても積み立てを継続することで、同じ投資額で取得できる投資信託の口数は多くなり、平均購入単価の引き下げに繋がる。

積立投資の効果を検証するため、架空の投資信託に10年間毎月1万円を積立投資し、基準価額が2倍になったとの仮定でシミュレーション

を行った。5年後に半値まで下落し、その後上昇した場合（ケース②）が、積立投資期間を通して上昇した場合



（同①）、当初に120万円一括投資した場合を上回る投資成果となった。投資開始後に下落トレンドになると心理的に不安を感じやすいが、どのような局面でも積立投資を継続することによって、相場反転時により大きな収益を得られることが分かる。

ただし、長期投資が有効といえるのは、過去と同様に長期的には世界経済が発展することが前提である。その前提が覆る可能性が全くないとは言えないものの、安定した資産形成のためには、積み立てによる時間の分散に加えて資産分散や通貨分散を取り入れ、リスクを抑えながら長期的な視点で運用を継続することが重要である。